

茂木敏充衆議院議員との対談 第1回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫



東日本大震災の募金活動



4月14日赤十字社を訪問し、
義援金を手渡しました。

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今朝は、スペシャルゲストとして衆議院議員の茂木敏充先生をお招きし、お話をおうかがい致します。先生、どうかよろしくお願い致します。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしく申し上げます。

林：毎年1～2回先生をお招きしてお話をうかがうことは、この番組にとっても光栄なことです。本当にありがとうございます。

茂木：こちらこそ。

林：さて、今回は今一番大事な問題である「今後の日本をどうするか」というテーマでお話をお聞きしたいと思います。

3回シリーズでお話をおうかがい致しますが、その第1回に当たる今朝は「東日本大震災と日本の課題」というテーマでお話をしていただきたいと思います。先生、お願い致します。

茂木：わかりました。

林：では、さっそくおうかがい致します。大震災から半年が経とうとしていますが、これまでの震災対応を振り返りまして、先生はどのようにお感じになられているのでしょうか。

茂木：今回の震災は、被災地の福島、宮城、岩手の3県だけではなく、栃木県でも被害が出ています。つまり、被災地が広域に亘っています。また、地震、津波、さらには原発事故と、複合災害の様相を呈しています。

私も被災地に何度も足を運び実際に目にしていますが、震災からの復旧・復興は **途半(みちなか)** みちなか 途半ばもいっていないと思います。

東北の新しい街づくり、復興プランという話もよくされますが、その前に当たり前の復旧、例えば被災地の方々に義援金を届ける、積み上がっているガレキを処理する、仮設住宅を建てるなどの当たり前の作業がまだまだ遅れているな、と感じています。

テレビの国会中継が入っていましたのでご覧いただいた方もいらっしゃるでしょうが、1 か月程前 7 月 19 日の衆議院の予算委員会で、私も質問に立ち、これまでの震災対応の問題点を指摘しましたのでここで話したいと思います。

震災からちょうど 4 か月が経った時点で、義援金の配分は 25 %、つまり四分の一しか被災者の方々に渡っていないのです。また、ガレキは仮置き場に搬送した後分別し、最終的には焼却をしたり埋設したりするのですが、仮置き場に一時置くというところまででも 37 %しか済んでいません。仮設住宅も作ってはいるのですが、入居率は 46 %という状況です。この当たり前の復旧というのが、95 年の阪神・淡路大震災の時と比べると相当遅れているのです。

林：復旧や復興の遅れの原因を、先生はどのようにお考えでしょうか。

茂木：遅れの原因は、大きく 3 つあると考えています。

1 つは、「政府がなかなかものごとを決められない」ことです。決定の遅れ・方針のブレのために、震災対策の補正予算や震災関連の法案を国会に提出するのが遅れてしまっているのです。例えば、復興の基本となる復興基本法は、阪神・淡路大震災の時は震災から 37 日で成立しました。ところが、今回は国会に提出されたのが 90 日以上経ってからでした。そして、成立は 102 日目でした。このことからわかるように、政府の決定力の欠如が復興の遅れの原因の 1 つになっていると思います。

2 つ目は、今の政権に経験がないことも影響しているのですが、「実行力がない」~~政権~~野党が協力して補正予算や震災関連の法案を成立させたとしても、その後の実施は政府の仕事なのです。実際は行政機関の行う仕事なのですが、これが非常に遅れているのです。

ガレキの処理を例に挙げると、市町村がガレキの処理をし、その費用を後で国が支払うという形になっています。これに 3600 億円の補正予算をつけたのですが、4 か月経った時点で実際に市町村に支払われたのはたった 5000 万円です。

林：随分少ないですね。

茂木：本当にいろいろな執行がかなり遅れているということです。

3 つ目は、「総合プランがない」ことです。被災地の早急な復興のためには、何と何が必要かという全体像を捉えていないのです。ですから、二次補正予算もたった 2 兆円でした。本来ならば 15 兆円あるいは 20 兆円という単位の補正を組まなければならないのですが、全体像を把握していないため、2 兆円という中途半端なものになってしまいました。

このように総合プランがないことが、被災地のニーズに断片的な対応しかできない、という結果になっているのだと思います。

林：3月11日の大震災以降、日本の国の在り方と申しますか、取り組むべき課題というものが様変わりしたとお考えでしょうか。

茂木：確かに、原発の安全神話が崩れるなど大きな変化はあったと思います。ただ、基本的には日本の抱える大きな課題は変わっていないと思います。

その課題は3つあると思います。その1つは、「少子高齢化社会が進展して財政負担が増大している」ことです。これは、医療、介護、年金など社会保障財源の問題でもあります。2つ目は、経済の面で「日本の国際競争力が低下している」ことです。3つ目は、財政赤字が拡大して、ギリシャではありませんが「財政再建が本当に差し迫っている」ことです。

この3つの問題が基本的にはあると思います。そこに、大震災以降は追加的な要素が加わったということです。その1つは、復旧・復興ということで財政のニーズがさらに拡大しました。そして、電力不足の問題や電力価格が値上がりをするという問題で、経済の低迷がより深刻になりました。

家計や企業の収支に例えて一言で言うと、今の日本は収入が減っているのに支出が増え続けることに歯止めがかからない状態にあるということです。

林：先生は、このような収入減・支出増の日本をどのようにしていったらよいとお考えでしょうか。

茂木：問題は確かに大きいのですが、悲観ばかりしては駄目だと思います。戦後の日本を振り返ってみても、60年代の高度成長、70年代から80年代にかけてのオイル・ショックの克服と、日本人には「克服力」があると思います。

一方で、世界全体が環境問題やエネルギー問題、人口問題に直面する中で、今こそ日本はその最先端を走る「発想力」を磨く時だと思っています。具体的なことについては、次回以降にお話したいと思います。

林：ありがとうございます。先生から、最後に「克服力」と「発想力」というお話をお聞きしました。今日は、衆議院議員の茂木敏充先生をお招きして、「今後の日本をどうするか」という大きなテーマの中で、「東日本大震災と日本の課題」についてお話をおうかがい致しました。

先生、本当にありがとうございました。

茂木：ありがとうございました。



4月14日 日赤十字社を訪問し、
義援金を手渡しました。



7月19日 予算委員会にて質問